

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム


学校番号：27001

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇札幌市の共通指標から、「学習で困っている友達に声を掛けたり一緒に考えたりするようにしている。」「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」児童が多い。人と関わりながら学ぶことを当たり前と感じられる児童が多い点は学習面での「よさ」と考えられる。</p> <p>◇令和5～6年度に研究主題としていた「関わり合いの中で主体的に学ぶ子ども」の実現に向けて教育活動を行ってきた成果と言える。</p>	<p>◇札幌市の共通指標から「自分の意見を進んで発言しようとしている。」「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。」の肯定的な回答は7割程度となっている。本校児童においては8割を切る項目は珍しい。</p> <p>◇保護者アンケートでは「家庭学習を通して計画を立てて学びを積み重ねる」項目でやや低めの結果となっている。家庭学習での取組に限らず、日常の授業から「課題をもって学習に向かうこと」「その課題を解決するために見通しをもって取り組むこと」を意識して授業改善に努めていく必要がある。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇共通指標の相互承認に関わる項目（1～5）において、全ての項目で肯定的な回答が多く得られた。「4.人の役に立ててうれしい」「5.人の役に立つ人間になりたい」では95%の児童が肯定的な回答を示している。行事や学習内容を生かし、異学年での交流を取り入れ、互いの頑張り認め合う場や、上級生に憧れの思いをもてる場を設定してきた成果と考える。比較的肯定的な回答の割合が低い「自分が必要とされていると感じる」（78%）に関しては子ども同士の相互評価の場や自己肯定感を高める教師の価値付けを大切にしていく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

関わり合いの中で主体的に学ぶ力

取組	課題探究的な学習の推進に向けて	自治的な活動の充実に向けて
	<p>◇研究副主題「個の学びを繋ぎ、学びの深まりと広がりを生む授業」の実現</p> <p>→自己や他者との対話を通して学ぶ楽しさを見出せる授業構築</p> <p>→多様な思いや考え、経験から生まれる「ずれ」を比較することで問題意識を生み、学ぶ原動力へ繋げる</p> <p>→子ども同士の考えを繋ぐ、ファシリテーター的な教師の関わり</p>	 <p>◇「琴似で学ぶ」</p> <p>→地域の人材や特性を生かした教材化と年間計画の編成</p> <p>→総合的な学習「けやきタイム」において、子どもが自ら考え関わる場を計画的・系統的に設定</p> <p>◇子どもの考えや意見、発想を生かした児童活動の充実</p> <p>→子どもが見通しをもち計画的に活動する委員会活動</p> <p>→子どもが仲間と協力しながら主体的に活動するクラブ活動</p> <p>◇子ども自身が育ちを実感するキャリアパスポートの有効活用</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p>		
<p>◇一人一台端末について、発達段階別に作成した「学年別スキル一覧」に基づいて活用する。課題探究や、思考をまとめ表現するツールの一つとすることで、学び方の選択肢を広げていく。ICTを活用することで多様な考えを生み出し、共働する楽しさや、自分に合う学び方や仲間との結び付きへ繋げる。</p> <p>◇週末課題や長期休暇中の課題のツールとし、児童が発達段階や学習内容に応じて、主体的に学びを進めるための活用を推進する。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

新年度

- ◇本プログラム共有
 - ・職員集会（5月2日）
 - ・ホームページ掲載（5月9日）
 - ・パートナー校間研修

【一人一人の教職員】

- ◇日常の授業・教育活動
- ◇各自の研修…札教研、年次研修等

【学校全体】

- ◇実践交流／校内研修
 - ・全校研、部内研等
- ◇子どもの育ちを共有
 - ・学年研修、教育課程推進委員会

次年度へ

- ◇学校評価
- ◇成果と改善点を共有
 - ・研究全体会